

令和4年9月定例教育委員会会議録

○日 時 令和4年9月22日（木） 午後3時～午後3時50分

○場 所 櫛引庁舎 3階 教育委員室

○出席委員 教育長 布川 敦

1番 百瀬 克浩（教育長職務代理者）

2番 清野 康子

3番 毛呂 光一

4番 齋藤 美緒

○欠席委員 なし

出席議事説明職員氏名

教育部長	本間 明	参事兼管理課長	清野 健
参事兼給食センター所長	佐藤 守	学校教育課長	成澤 和則
学校教育課指導主幹	渡邊 智	社会教育課長	沼沢 紀恵
社会教育課文化財主幹	五十嵐 恭子	中央公民館長	熊坂 めぐみ
図書館長	武田 綾子	スポーツ課長	阿部 三成

出席事務局職員氏名 管理課庶務主査 奥山 真裕

会議次第

1 開会

2 市民憲章唱和

3 会議録署名委員の指名

4 議事

なし

5. 報告事項

(1) 令和4年9月市議会について

(2) 令和4年鶴岡市成人式について

(3) 高山樗牛賞について

(4) つるおか文化財めぐりについて

(5) 松ヶ岡クラフトフェスについて

(6) 藤沢周平記念館 文学散歩<『証拠人』『又蔵の火』を歩く>について

(7) 藤沢周平記念館 館外展示<作品題名書道展>について

(8) 藤沢周平著『小説の周辺』（中国簡体字版）の第8回魯迅文学賞「翻訳文学」部門受賞について

(9) 中央公民館文化祭、講座について

(10) その他

開 会 (午後3時)

教育長 ただいまから9月の定例教育委員会を開会する。はじめに市民憲章唱和を行う。

(スポーツ課長が先唱し市民憲章唱和)

本日の会議録署名委員は、4番委員に願います。

教育長 本日は議事の予定がないので、報告事項に入る。

報告事項(1)について、事務局より報告をお願いする。

管理課長 令和4年9月市議会について、総括質問、一般質問の状況だが、総括質問では、教育委員会に関わる通告はなかった。一般質問では10名の議員から通告があった。

事前に総合教育会議、市議会重要事項説明、藤島地域振興懇談会において、小中一貫教育推進について方向性を示したため、4名の議員からこのことについて通告があった。議員への答弁によって、改めて小中一貫教育の内容や推進の目的を議場で説明する機会となった。翌日の荘内日報には「小中一貫教育の在り方議論へ」と見出し入りで報じられた。なお、議員からは、「これまでの教育委員会資料ではデメリットについての記載が不十分」との指摘があり、10月に開催される藤島地域教育振興会議では、その点も丁寧に説明することとしている。

また地域移行が予定されている部活動についても2名の議員から質問があり、令和5年度からの段階的な地域移行の方法等について説明するとともに、指導者の確保や報酬、生徒の移動方法の確保、施設使用に係る経費等の問題について、国や県の動きを注視しながら検討を図っていく旨回答している。

継続事項となっている茅原北地区のスクールバス運行については、現行の運行基準には合致しないが、都市計画マスタープランで居住誘導地域に位置付けられていることに鑑み、急ぎ検討する旨回答した。

教育長 ただいまの報告についてご質問、ご意見等はあるか。

なければ次に、報告事項(2)及び(3)について、事務局より報告をお願いする。

社会教育課長 令和4年成人式について、本年1月9日(日)に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により11月20日(日)に延期し開催する。時間は午後1時30分からの1回開催で、対象者数は平成28年度に卒業した1,203名である。

新型コロナウイルス感染予防対策として、事前に申込みを受け、申込者には抗原検査キットを事前送付し、当日受付で陰性を確認する体制を予定している。4月の成人式と同様に、市民歌、国家斉唱は音声のみとする。

また、参加できない新成人や保護者のためにライブ配信を予定している。安心安全な成人式の開催に向け準備を行っており、委員には改めてご案内させていただく。

次に、高山樗牛賞について、高山樗牛賞は昭和33年度の制定以来、今回で65回を迎え、これまで一般の部で59名が受賞している。また、小学生及び中学生と高校生の部については、若い人の文芸領域への関心を高め、その土壌をつくることを目的に、児童生徒個々の創作活動に着目し、それを顕彰する高山樗牛奨励賞を平成15年度に創設し、これまで32名が受賞している。

今年度の候補者の推薦については、5月末に推薦を依頼し、締切りの8月30日（火）までで、本賞1名、奨励賞候補者4名の推薦があり、予備選考協議会を昨日終えたところである。

今後の日程として、10月4日（火）に選考協議会を開催し、その協議結果を踏まえ10月19日（水）の次回定例教育委員会でご検討いただき、授賞の可否を決定することになる。なお、授賞式は、11月21日（月）の午後3時から、グランドエル・サンで行う予定であり、委員には改めてご案内させていただく。

教育長

成人式が11月20日、授賞式が11月21日と連続するが、よろしくお願ひしたい。

ただいまの報告についてご質問、ご意見等はあるか。

なければ次に、報告事項（4）及び（5）について、事務局より報告をお願ひする。

社会教育課
文化財主幹

「つるおか文化財めぐり ぐるっと日本遺産の港町・加茂めぐり」について9月24日（土）に開催する。小学生とその保護者を対象に、学校を通じて募集チラシを配布し、午前午後の2回の開催に、12組28名の親子が参加する予定である。

新型コロナウイルス感染予防対策として、移動にはバスなどは使わず、人数も分けて同じプログラムを午前と午後で開催する。加茂コミュニティセンターに集合し、加茂地区のガイドに協力をいただき、約2時間かけて加茂の港町を巡る。今回は新しくなった加茂コミュニティセンターを起点に、車では走りにくい生活道路の細い道沿いのまちなみや文化財などを見学するものである。

次に、松ヶ岡クラフトフェスについて、当課主催ではないが文化財を活用したイベントであり、酒井家庄内入部400年を記念し、10月1日（土）と2日（日）に国指定史跡松ヶ岡開墾場で開催する。多くの方に来ていただきたいイベントであり、委員にご案内させていただく。

教育長

つるおか文化財めぐりについて、午前と午後で各10組とのことだが全

社会教育課
文化財主幹
教育長

てで12組の申込みか。

その通りである。

ただいまの報告についてご質問、ご意見等はあるか。

なければ次に報告事項(6)から(8)までについて、事務局より報告をお願いします。

社会教育課長

文学散歩について、令和2年度から行っており今回は「『証拠人』『又蔵の火』を歩く」とし、10月2日(日)に開催を予定している。

庄内藩の歴史資料「高名の覚え」にヒントを得て創作された『証拠人』、また、鶴岡で実際にあった『又蔵の火』に登場する場所を巡る。午前と午後の2回開催とし募集したところ、ほぼ定員に達する申込があった。

次に、藤沢周平作品題名書道展について、藤沢周平記念館を知ってもらう機会として館外展示を行っており、現在、松ヶ岡開墾場2番蚕室の1階で開催している。鶴岡中央高校の書道部の皆さんから、藤沢作品の小説を読んで感じたままに題名を揮毫していただいた。高校生の生き生きとした表現をぜひご覧いただきたい。

最後に、藤沢周平氏著作エッセイ集『小説の周辺』の第8回魯迅文学賞「翻訳文学」部門受賞について、魯迅文学賞は中国作家協会が1995年に創設し「中国における最高の荣誉である文学賞」と言われている。中・短編小説、ノンフィクション、詩歌、散文、雑文、文学評論、外国文学作品の翻訳などの部門が設けられている。日本人作家としては、2007年の大江健三郎氏に続き、二人目の受賞となる。

『小説の周辺』選評は、魯迅文学賞の選考委員のコメントによると「日本人作家藤沢周平氏による『小説の周辺』は、なめらかな語り口のうちに穏やかさと知恵が満ちている。」である。このエッセイ集は、郷里鶴岡と幼年時代、師や友、創作秘話、日常身辺などを簡潔に綴った内容であり、藤沢周平記念館や書店で販売している。参考だが、魯迅文学賞と並び中国最高の荣誉を持つ文学賞として茅盾文学賞があり、中国の長編小説を対象としている。

翻訳者の竺祖慈氏だが、1949年生まれで現在73歳である。『訳林』雑誌の日本語編集者、副編集長、編集長、訳林出版社副社長、編集審査員、全国日本文学研究会副会長を務められた。訳林出版から刊行されている中国語版藤沢作品は12作品あり、この中の1つの『小説の周辺』が受賞となった。

本市では、市広報11月号で受賞を紹介する予定で、遠藤展子氏のコメントも掲載する。また、同館内サロンに魯迅文学賞を受賞したお知らせと

中国語版藤沢作品12作品を配置した。館外掲示板や図書館藤沢周平コーナーでも受賞をお知らせしている。朝日新聞などの全国紙を始め、各地方紙でも掲載していただいている。また、テレビでは、山形放送で9月12日（月）のニュース番組で取り上げていただいた。

受賞などの細かい情報は当方に伝わっていないため、今後、新しい動きがあった場合、改めてご報告する。

教育長

ただいまの報告についてご質問、ご意見等はあるか。

1 番委員

魯迅文学賞は1995年の創設以来、日本人では2人目の受賞とのことだが、応募しているが受賞に至らない状況だったのかなど、分かる範囲で受賞の経緯をお聞きしたい。

社会教育課長

当方にも詳しい情報が入っていないため分からないが、中国版の『小説の周辺』が2018年8月に刊行されたことから、4年ごとの魯迅文学賞で審査対象になったと考えられる。

教育長

次に、報告事項（9）について、事務局より報告をお願いします。

中央公民館長

文化祭について、一昨年は中止、昨年は規模縮小で開催したが、今年は昨年よりも規模を大きくし9月30日（金）から10月2日（日）まで開催する。

展示では水墨画と木版画のサークルに実演していただく。女性センターでは、編み物とパッチワークサークルなどが小さな作品を販売する。2日のステージ発表では、中央公民館と女性センターを拠点に活動しているサークル、また、大山など地域で活動されている団体にも声をかけたことにより、例年並みの出演団体数で賑やかに開催できることを期待している。

中央公民館の秋の講座について、9月募集の講座は申込期間が今日までだが、余裕があるため今月末まで延長している。ビストロ下水道の取組みはテレビ等で取り上げられているものである。10月募集の講座は、久しぶりに16ミリ映写機の操作講習会を開催する。ここ数年、庄内地方では講習会が開催されていないものであり、かつての庄内視聴覚ライブラリーのフィルムの活用につながると考えている。

女性センターの秋季講座について、9月募集の内、定員に余裕があるものは申込期間を9月末まで延長する。男性講座第一弾の「自分でつくるこだわりのスパイスカレー」も開催する。

女性センターの料理講座について、『つるおかおうち御膳』が改訂されたことから、各地域の食生活改善推進協議会の協力のもと、5月に羽黒地域、6月に藤島地域の郷土料理を学ぶ教室を開催した。今後、10月に温海地域、11月に櫛引地域、12月に温海地域、来年1月か2月頃に鶴岡地域の講座を予定している。10月の教室では、温海の特産品を使い家庭の食卓で出していただきたい料理を紹介する。

男性料理教室第2弾「自分でつくるお手軽中華料理」について、食卓や会食に一品だせるような料理を紹介する。

女性センター開館40周年記念講演会について、女性センターが開館40周年を迎えたことを記念し、11月27日（日）に坂東眞理子氏を講師に迎え講演会を開催する。市広報やチラシ配布で周知を図る。申込み開始が10月12日（水）からで、先着400名である。ぜひ委員の皆様からお越しいただきたい。

教育長 ただいまの報告についてご質問、ご意見等はあるか。ほかに報告事項はあるか。

スポーツ課長 子ども夢スポーツフェスティバル in 鶴岡2022について報告する。

次代を担う子どもたちの心身の健康づくりとスポーツの日常化を目的に、親子で楽しめる体を動かすプログラムや運動、スポーツの楽しさを実感できる機会を提供するイベントとして、例年開催している。

去年は、コロナ禍の開催として、オンラインと現地プログラムを組み合わせ実施したが、今年はコロナ禍前のスタイルに戻し、ニュースポーツへの挑戦をメインとし、昨年から開催しているボッチャコーナーなど1日を通して子どもが楽しめるプログラムを用意している。

また今年も、SOMPOボールゲームフェスタを同時開催する。幼児期以上の子どもたちにボールゲームの素晴らしさを伝えるとともに、体を動かす楽しさを体験しながら基本的な技術の習得や技術力をアップする機会を設け、次世代の子どもたちのスポーツライフを支援することを目的として実施する。この事業は一般社団法人日本トップリーグ連携機構が中心となり全国各地で開催している。本市も実施希望を依頼していたところ開催につながった。

内容では、午前中は年長から小学3年生の親子対象のあそびバ、午後は小学4年から6年生を対象としたキッズチャレンジという4種類のボールゲームの体験を実施する。スペシャルゲストとして北京五輪新体操日本代表の坪井保菜美氏をお迎えし、子どもと交流を図っていただく。

チラシは、今月末に市内全小学児童分と市内の幼稚園、保育園に配布するとともに市ホームページで周知するものである。

教育長 ただいまの報告についてご質問、ご意見等はあるか。

1番委員 日本トップリーグ連携機構から採択されて行うとのことだが、今年のみイベントになるのか。

スポーツ課長 このイベントは、本来、令和2年3月に行う予定だったが、コロナウイルス感染症が全国的に広まっているタイミングであり中止となった。その後、再度募集があり、中止となった自治体は優先的に採択されるとのことだったため再申請し、子ども夢スポーツフェスティバルと同日開催となっ

た。

今年の実施状況を見ながら、翌年度も対応できるものであれば、招聘を検討していきたい。

1 番委員 ボッチャ体験にハンディキャップのある子どもが参加したい場合は、対応できるのか。

スポーツ課長 昨年実施したスポーツ少年団を対象としたボッチャ体験では、参加に制限は設けていない。また、鶴岡市身体障害者福祉協会ではボッチャに取り組んでいる車いすの方と子どもたちとの交流を図る催しも計画している。

今回のイベントは体験コーナーであり、ハンディキャップのある子どもも参加することができる。会場も小真木原総合体育館 1 階でバリアフリーにも対応している。

1 番委員 健常者と障がい者が一緒に活動できるような機会を設けて頂くことを期待する。教育委員会だけでなく関係機関や団体とも連携してもらいたい。

会場の第 2 多目的ホールのフロアは車いすでも対応できるのか。

スポーツ課長 実際にホールで車いすの方がボッチャを行っており、心配なく対応できるものである。

教育長 親子の体験、子どもだけの体験など、よい内容のイベントで多くの来場を期待する。

ほかに報告事項はあるか。

2 番委員 昨日、鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会に参加した。その会議において加茂地区自治振興会関係者の話を共有したく報告する。

その話とは、加茂地区では加茂小が大山小に統合し、地元小学校がなくなつたため、全く地域づくりができなくなりとても困っているという内容であった。

まちづくりや地域コミュニティに関して若い人の関心がなくなつてしまい、地元学校がないため、そのような状況になってしまうことを知ってもらいたいと言っていた。また、加茂地区から大山小に通う子どもは、大山地区の行事には参加するとのことで、今後、学校が統廃合する場合、気に留めてもらいたいとのことだった。

大山小の子どもに対して大山地区だけでなく、加茂地区のことを教えていくことも必要ではないかと感じ報告する。

学校教育課長 本市では学区再編で 1 4 の小学校が閉校になったが、閉校した小学校のあった地域に、例えば小学校 1、2 年生であれば、生活科の授業で町探検としてスクールバスを利用して行っている。

また、大山小の 5 年生が、他校であれば金峰少年自然の家を利用するところ、加茂地区でヨット体験などを行うなど自然教室を実施している。このような取組みは大山小だけでなく、他の閉校になった地域でも同じよう

な活動を実施している。

また、PTA行事でも、例えば朝四小では田川地区に行って、バーベキューや谷沢川の川下り体験などの行事を行っていた。市教育委員会では、スクールバスについても、閉校した地域に何回か行くことができるように配車を考慮している。

田川や長沼地区では放課後子ども教室をコミュニティセンター等で行っている。スクールバスで子どもたちが地元のコミュニティセンター等に帰ってきて、子どもたちと地域の人たちが触れ合いながら活動している。

小学校がなくなることによる課題はあるかもしれないが、子どもやその保護者の方々が自分の地元に関心を持っていただくような取組みはさまざま行われている状況である。

2番委員 昨年に行われた会議で同じ話を聞いたが、今年は教育委員会を意識した発言だったために報告させてもらった。

学校教育課長 加茂地区では、これから「渚の交番」という建物が新設される。この施設を一つの拠点に、子どもたちが海に親しみ海を知る海洋教育を充実したいということで、開設にむけ学校教育課も協力している。

今後、この施設でさまざまな活動ができるプログラムが作られ、各学校に示していけば、小学校での自然教室や加茂水族館と渚の交番を活用した郊外学習も実施できると考えている。

教育長 個人の受け取り方は様々だと思うが、学校教育課では地域学習に取り組んでいる。各地域コミュニティにおいても地域で子どもを育てる気概を持っていただき、地域でできないことは学校も協力していきたいし、そのような声は聞いていきたい。

2番委員 庄内教育事務所が行う地域学校協働活動推進員養成講座のチラシを見たが、講座は平日日中に開催されている。実際に活動している方の中には平日仕事をしている方もいるので、このような方は参加できないと感じた。参加しやすい開催日設定について市教育委員会から伝えてもらえればと考えている。

社会教育課長 平日日中は参加できる人が限られる旨、庄内教育事務所に伝えたい。

学校教育課長 地域学校協働活動に関する講座や研修会には教員も参加するので、平日の開催であれば教員は参加しやすい。ただ、他の職種ではそうでない場合もあると考える。

教育長 参加対象者のことを考えると、例えば平日日中の部と夜間の部など2回設定することもできるのではないか。

ほかに報告事項はあるか。なければこれをもって9月の定例教育委員会を終了する。

閉 会 (午後3時50分)